SCAN

'85 Autumn

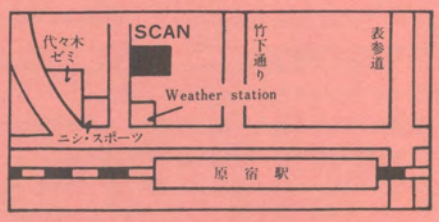
第10回ビデオアート公募入選作品発表展

SCAN'85は、新鋭による日本の新しいビデオアート作品の選抜展です。広く全国から作品を公募し、毎年新しい選考委員2名を迎えて選考されます。この公募シリーズを通してSCANは、多様なジャンルから出来るだけ多くの秀れたビデオアート作品を世に出していきたいと願っています。入選作品はビデオ・ギャラリーSCANにて公開ののち、世界各地のビデオ展・フェスティバルへ日本を代表して送られます。

期間　11月22日(金)～11月24日(日)
　　11月29日(金)～12月1日(日)
時間　(金・土曜) 4PM　7PM
　　(日　曜) 2PM　5PM

会場　ビデオギャラリーSCAN
主催　ビデオギャラリーSCAN
協力　ソニー株式会社
　　日本ビクター株式会社
　　住友スリーエム株式会社

ビデオギャラリーSCAN
渋谷区神宮前1-21-1
phone　03-470-2664
VIDEO GALLERY SCAN
1-21-1 JINGU-MAE SHIBUYA-KU TOKYO 150



SCAN '85 autumn

〈中島　興……SCAN '85 autumn

中島　興
Ko　Nakajima

〈「心の内部」へカメラを……〉

今回はあまりおもしろい作品はありませんでした。なんだか観てて「ね・む・く」なってしまいました。ピリーッと来る作品がなかったようです。それとも審査にあたった小生の「め」がふし穴で作品を見る「眼」がなかったのかも知れません。少々、全体的にいって作りが雑っです。しかし、大西氏の作品は見えない部分である「音」を聞く部分が大変におもしろく、みえない映像に「興味」を持ちました。何んでもない夏の夜の1日の中に音でみせようとする「音の力」がきわめてビデオ的（日常）でスーとぬけるようでした。30男のやりきれないコンセプトが感じられました。佐々木氏の作品はアイデア賞的でしたが。少々、島野氏の系列に属しますが、島野氏もどちらかと言えばウッディーバスルーカの系列に属しますので、この2人はバスルーカの親せきに入るアーチストだと思うのでしょうか？　これも小生の一方的なひとりごとかも知れません……。

土佐さんの作品は素材を何回もくりかえして使っているところが気になりましが、彼女の作品は大ざっぱで「わしづかみ」のところがあり「映像に力」があり興味のもてる作家の一人です。九州の女性アーチストにはどうしてナイーブで繊細なところがないんでしょうか？　それは地形風土の性でしょうか？　いやいや、ひたすら力でおしまくるパワーが九州女性アーチストの心意気かも知れません。

最後に多寡氏の作品は音楽的エディティングが何んとも言葉を超えており、文字で書けないのが残念です。まわりや、あたりを気にせずにひたすら長期にわたって作品を作り続けられることを作家の1人としてのぞむしだいです。

コンスタントに作品を作り続ける、これはビデオ表現運動をねざす国際的なきずなのような気がするのですが……。いかがでしょうか？　表現運動なしにはビデオアートは存在しないようですが……!!　出品者の皆さん、もう少々、「心の内部」へカメラを向けてはいかがでしょうか？　大西氏の電気の消えた音だけの映像の中にそのヒントがあるような気がします。

コメント　●作家N.中島　興　M.森岡祥倫

入選 SCAN'85 autmn プログラム

佐々木成明
Naruaki Sasaki

Toller Pole　1985 Color 7min

●中心としての私　振りまわされる環境としてのアナタ、もしくは三脚としての私とカメラとしてのアナタによる視覚の冒険。

N. これはまた天才的なビデオ作家と思いましたが!!　少々、島野君を思わせるのが気になります。そうオコらないで下さい。島野氏よりははるかに天才です。と、まあ次なる作品に取り組んで下さい。作ったものにとやかく言うのはやめましょう。傑作の中の大傑作であるのはまちがいないのです。天才はカメラをのぞかないのです。

M. "映像の天地左右"は必ずしも自然界の摂理をそのまま受け入れるとはかぎらない。このテーマは、多くの独創的な写真作品や実験映画の中で検証されてきた。ビデオアートにおいても、例えば島野義孝の作品がそのよい先便となっているが、佐々木さんの作品は、その装置のアイデアにおいて最もユニークで、かつまた視覚的な効果において最もダイナミックな体験を見る者に与える。

多寡　克也
Katsuya Taka

DENO　1982－85 Color 1min30sec

●向こうから"来る"ときは、できて、来ないときは、できません。頭の上に"——"線ができればできあがり　待っててもしょうがないから、ボチ、ボチ、歩いとります。

LAST FEEL　1984－85 Color 5min

●「作家は、スランプになると、死んでそのことを解決しようと思うものです。」と読んだので　ワアッ　その手があったのかと喜びはしたもののオレは、作家なんかじゃないので、関係ないワイ。生き恥さらしてやっとるワイ。アホー。

ワタシノアナタ　1985 Color 1min40sec

●お姉さんがかわいかったので、女の子、男の子、いっしょに遊んでしまった、ワタクシでした。お姉さんとSEXできませんでした、残念どす。

N. バイロン・ブラックを先生にいただく、大阪のビデオアーティストの出現です。おもしのきいた「つけもの」をたべている、パリパリした映像がなんとも歯にしみて、頭の裏をシゲキするのです。傑作中の大傑作、パリパリ「おしんこ」の映像美をごらん下さい。パチパチパチ

M. ビデオアーチストとして最も若い世代に属する多寡さんの作品には、音楽（自作か？）の扱いにせよ特殊効果の扱いにせよ、"ビデオアート風"の気背いが全くない。それにしても、小供たちの日常をとらえたこのインサートは何だろう、この8ミリ映像は何だろう。作者のパーソナリティに触れるこれらの断片的な映像に、次の世代の新鮮な感覚が予感される。

SCAN '85 autmun

の選考を終えて……森岡祥倫〉

森岡　祥倫
Toshitomo Morioka

〈ビデオを取り巻く環境として今必要なもの〉

今回のエントリー作品は57本、一人で6～7本を応募している人もいるが、おそらく過去最高の数であろう。そのため前回に比較すると様々なスタイルが見て取れるのだが、個々の作家のビデオグラフィからみてもやはり突出した作品は少なかった。

ＳＣＡＮの作品公募が、巷に乱立する許多のビデオコンテストと一線を画しているのは、選ばれた作品と作者に権威の手で張子の冠を押し頂かせるのではなく、世界各地のビデオ展からの要請に応じて入選者をディストリビュートするという、ビデオ・メディア本来の役割を当初から機能させてきたからに他ならない。入選者はその場かぎりの〝勝者〟ではなく、日本を代表する作品として不断に新たな評価を受け続ける……そうした視点から従前の選者たちは審査を行なってきたはずである。その結果と言うべきか、今回もまた入選作はわずかな数に絞り込まれてしまった。理由は前回のリーフレットに標した通り。状況に変化はない。重複は避け、ここでは、作家や観客や評論を取り巻く環境として今なにが不足しているのか、今後のＳＣＡＮへの期待も含めて、私なりの朴訥な意見を連ねさせていただきたいと思う。

①新しい作家の出現、新しい作品の露出を促す〝場〟の必要性。その意味でこの公募展の存在価値は今後とも大きいが、その運営方法はこのままでよいか。年２回というサーキュレーションは、選考方法は…。

②特定の作家の活動を俯瞰できる個展形式の発表会は、観客の興味を喚起しやすく、またジャーナリズムや評論にとっては作家論の前提となる貴重な資料を提供してくれる。相応のキャリアを持つ作家に、個展の機会をもっと与えるすべはないか。

③ビデオ・パフォーマンスやインスタレーションなど、パッケージ・メディアとしてのビデオの限界を越えようとする表現形式の発表の場があまりにも少ない。新たな回路を作っていく必要がある。

④ビデオ・ライブラリーの不足。単に量（作品数）の問題だけでなく、作家のレファレンス視聴、評論家・ジャーナリストの研究にも供せるような運営ノウハウ構築の可能性がそろそろ問題にされてよい。ビデオアートに関するベーシックな研究や評論がこの国に育たない原因のひとつでもあるので、各地の大学や美術館のライブラリーともリンクした方法を早い時期に見つけ出したいものだ。

⑤一般のビデオ雑誌ではともすればハードウェア情報や市販ソフト情報の中に埋もれがちな国内外のビデオアート関連情報を、広く詳しく作家や観客に伝える専門媒体＝ペーパー・メディアが必要である（カナダやアメリカ、フランスにはその種のものが数紙・誌ある）

以上思いつくままに挙げてみた。資金、資力の限界を理由とする断念や現状是認より恐いのは、それらの〝欠如〟を欠如として自覚せずとも作品が生産されてしまうその見せかけの豊かさである。

土佐　尚子
Naoko Tosa

Trip　1985　Color　7min

●無意識の世界。深層心理の境地で見ている人の、はりつめた神経をゆるめてしまう。

N.　いやいや、九州女性のわしづかみの映像のダイナミックさをひさびさにみました。ドバーッと無神経なところがいいのです。大味じ!!　なんとも土佐さんの映像は「味っけなし」の大味じビジアル・イメージです。それは、それでよかとですヨ!!

M.　同一の映像素材が一連の作品の中で次々と新しい編集・加工を受け変代していく手法は、パイクの常套であるが、土佐さんも同様の姿勢を数本の作品の中で取り続けてきた。しかしここでは、「AN EXPRESSION」や「アーキクチャー」などから受け継がれた写真素材や幾何パターンが、原形の面影をほとんどとどめない美しい映像のテクスチャーに姿を変えている。

大西みつぐ
Mitsugu Ohnishi

ビデオのある普通の暮し――眠れぬ夜――　1985　Color　30min

●夏の夜、眠れなかったのでビデオを持ちました。NEW・ファミリービデオ（ニューファミリーではありません）Vol.2

N.　これも今回の傑作の一つです。大西君は太陽賞を受賞した、写真家です。彼のワンダーランド・シリーズとくらべると少々個人的すぎますが、夏の夜の一日、なんとも30男の静けさが出てました。虫の声と真暗なところに音のイメージが想像できるところが傑作のひけつのようです。しかし、年をとりましたネーッ!!　大西ーッ!!

M.　この作者にとってのビデオは、深淵な理念やコンセプトへ到るためのアートの道具でもなければ、個人や家族のプライベートな記憶に沈澱、下降する日常記録の道具でもなく、むしろ〝家具〟の在りように似ている。文字通りのホーム・ビデオのスタイルをとりながら、ホーム・ビデオ自体へのすぐれた批判・分析となっている。そして、〝闇のかたち〟をか細い音の糸で縫い取る術をみてほしい。

SCAN '85 autumn

SCAN '85 autumn は応募総数57作品の中から選考いたしました。
SCAN'85ビデオアート新作公募展は、来年度より新たな展開を行ないます。内容・形体に関しましてはただ今検討中です。これからのSCAN公募展にご期待下さい。なお、応募の〆切りは来年10月末になる予定です。

SCAN'85 ビデオアート新作公募展は、ビデオギャラリーSCAN主催のもとに、ソニー株式会社、住友スリーエム株式会社、日本ビクター株式会社、三社のご協力のもとに行なわれています。

SONY

これは、ビデオです。

手にすればわかる。もうビデオは8ミリビデオ。
ソニーからくハンディカム>新登場。

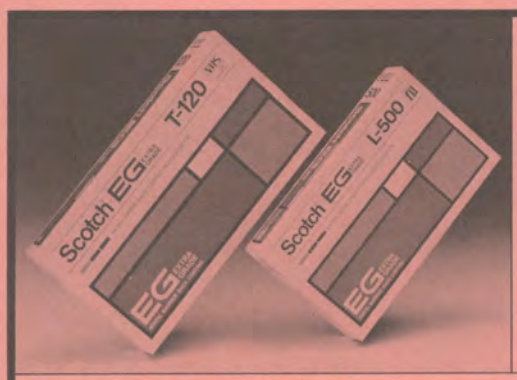
誰でもカンタンに撮れる。すぐテレビで見られる。
カメラの面白さを超えて、あなたの手に、ハンディカム。

カメラ撮り専用 8ミリビデオ
Handycam

●ショルダーベルト付属●重量:1.0kg(バッテリー、カセット含まず)●最大外形寸法:幅55×高さ108×奥行169mm(本体のみ、グリップ含まず)

CCD-M8‥¥198,000

■録画・再生について●このビデオは8ミリビデオ方式のビデオです。●8ミリビデオ方式のビデオカセットテープをご使用下さい。



もう、HGはいらない。

(全アイテムバックコーティングしたただひとつのスタンダード)

Scotch® EG
スコッチ ビデオカセット
EXTRA GRADE

住友スリーエム株式会社 3M
磁気製品事業部
本社 158東京都世田谷区玉川台2-33-1 ☎(03)709-8492

3M

Victor
JVC

新しい才能の芽を
——のばしたい。

Video Scholarship
ビデオ制作奨励制度
■第4期対象者募集■

ビデオソフト制作を志す人たちへの活動を援助するために発足しました。
創作への熱意と、独自の作品企画をお持ちの方が対象です。

●受付期間/1985年6月1日〜12月25日(当日消印有効)。ビクタービデオセンターVIC(全国21ヵ所)にある申請書でお申し込みください。
●内容/基金総額は500万円。助成金および機材・設備使用費を含みます。助成対象件数は5件程度の予定です。
●発表/1986年春。
〔お問い合せ〕
ビクタービデオセンター『ビデオ制作奨励制度』事務局
〒100 東京都千代田区霞が関3-2-4 霞山ビル3F
TEL 03(581)4767
ビクタービデオセンターVIC大阪
〒543 大阪市天王寺区小橋町10番16号
TEL 06(768)0747
※または、お近くのVICへお尋ねください。